

<みことばか、言い伝えか>

マルコ7：1～13

日常生活の中で浸透している 「しきたり」
清めの塩 / 六曜（ろくよう）暦 etc

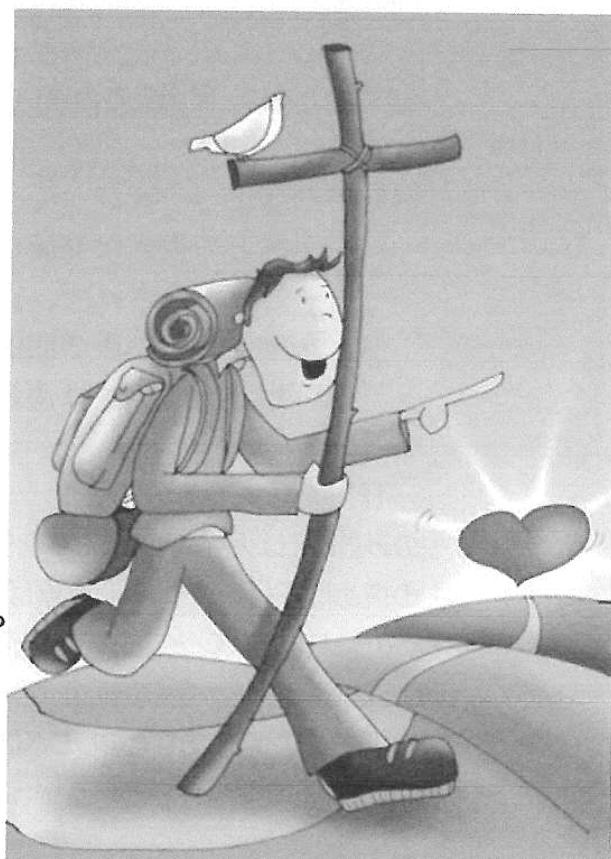
- ◆根拠がない「ならわし・しきたり」は、時として人の心を惑わし、正しく物事を判断する力を削ぐ。
- ◆信仰や祈りが形式に縛られて、不自由に、窮屈になっていないだろうか・・・？

さて、パリサイ人たちと幾人かの律法学者がエルサレムから来ていて、イエスの回りに集まった。【1節】

わざわざ田舎のガリラヤ地方まで来たその目的は・・・？
イエスさまを陥れる口実を捜すため。

発見！

弟子達が汚れた(不浄)手、洗っていない手でパンを食べている。 一大事だ！



【歴史的背景】

バビロン帝国によって国が滅び、捕囚された痛切な悲しみを経たのは、神の教えに聞き従わず背を向けて悪をおこなったからという深い悔い改めがあった。それ以来、モーセの律法を厳格に守るように努めた。それがエスカレート。律法を守ろうとする意識だけでは不十分とし、律法違反を防ぐための方策が沢山増えて、先行した。

人と共に生きようとされた神。そのために与えられた神のみことば。
それが、規律を守るためだけの「人の教え」にすり替えてしまった。

イエスキリストはこの「しきたり・人の教え」と闘われた。

コルバン・・・神への献げ物。

助けを求める両親に対して、「コルバン」を理由に、親の扶養の義務から逃れられる道ができていた。

「あなたの父と母を敬え」と教えていたはずなのに。しかし！

自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしている。【13節】

『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。彼らが、わたしを拝んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。【6～8節】

「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、神の戒めをないがしろにしている。」【9節】

信仰の形骸化（中身がなく、形だけのものになること）

- ・ 神との生きた交流が絶えてしまう。
- ・ 心は満たされず、空しいものになってしまう。
- ・ 神と人との愛の関係が損なわれれば、神の赦しや、赦される者が知る「恵み」の価値は薄れる。

【詩篇19：7～11】

主のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、主のあかしは確かで、わきまのない者を賢くする。

主の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。

主への恐れはきよく、とこしえまでも変わらない。主のさばきはまことであり、ことごとく正しい。

それらは、金よりも、多くの純金よりも好ましい。蜜よりも、蜜蜂の巣のしたたりよりも甘い。

また、それによって、あなたのしもべは戒めを受ける。それを守れば、報いは大きい。